

地域医療後期研修プログラムアドバンストコースのご案内

地域医療学センター地域医療人材育成部門 三瀬 順一

はじめに

これをお読みになっている多くの先生方が、日頃の診療の中で、最近の高齢化に伴う慢性疾患の増加と複雑化を実感されていることと思います。また、地域医療の現場では、医療機関を訪れた患者さんたちの病気だけでなく、地域住民の生活をも総合的に診ることのできる医師へのニーズが高まっていることもご承知の通りです。

厚生労働省と日本医師会、プライマリ・ケア関連3学会の間では、総合医、総合診療医、総合診療科に関する議論が本格化するとともに、マスコミを通じて「総合医」への一般の理解が進みつつあるように思います。ここ数年、議論は一進一退をしながらも、着実に「総合医」の実現に向かっていくことは間違いありません。

自治医科大学は、総合的な医療を提供するほか、保健・福祉・行政と連携し、家庭・地域へもアプローチする感性や能力を備えた「総合医」を提唱し、創立以来、その養成に努め、多くの卒業生が全国で「総合医」として活動しています。今後は、さらに一歩進めて、国民の期待に応えられる資質と能力を持った「総合医」を十分に供給する体制を作り、「総合医」の量的な充足が必要になっています。

そのために、私たちは、まず教育者・指導者を養成することから始めなくてはならないと考えました。幸い、地域医療学部門(附属病院総合診療部)をはじめ、学内には、「総合医」として活動した経験を持つスタッフが多数在籍し、医学生や研修医の教育指導にあっています。加えて学内の豊富な人的資源・教育資源があります。これらを活用し、「総合医」養成のための指導者の確保と質の保証を図るコースを設けました。これが、「自治医科大学後期研修プログラムアドバンストコース」です。



アドバンストコースの二つの目標

アドバンストコースでは大きく二つの目標を設定しています。一つは、地域医療・家庭医療・総合診療などのプライマリ・ケア分野の実践経験を踏まえ、さらに優れた実践能力を身につけることです。個々人が「総合医」としての一定の能力を持っていないければ、指導者と言っても説得力がないでしょう。もう一つは、この分野の人材育成に取り組むための教育・指導・評価や、企画・調整能力を身につけることです。こういったことは、医学生や研修医に実際に教育指導する経験を通じてしか身につけることができません。どちらも、将来、医療機関や地域の中核的医療機関での指導教育にあたる指導者にとっては、重要な能力だと考えています。

アドバンストコースのゴール

アドバンストコースでは、具体的な目標を次のように設定しました。

I 総合医について説明することができる

1. 総合医の概念を説明することができる。
2. 総合医の10の基本要素を説明することができる。(総合医の10の基本要素(五十嵐正統) <http://www.iichi.ac.jp/usr/tiik/kihon.htm>)
3. 総合医が重視する活動内容を説明することができる。
4. 総合医の質を保証する学問的手法・学問体系を説明することができる。

II 総合医に特徴的な活動を伝えることができる。

1. 総合医活動を通じた、地域の特性に応じ地域住民の実情に即した、より良い医療サービスの提供
2. 地域包括ケア、地域づくりの推進
3. 患者及び地域住民との良好なコミュニケーションに基づく、健康問題やニーズへのアプローチ
4. Evidence-based Medicine(EBM)を有効に取り入れた、患者及び地域の健康問題へのアプローチ
5. 代表的な日常問題や日常病について、質の高い診療を行うために常に備え対応すること
6. 地域医療現場にて重要でニーズが高い検査及び処置の実施
7. 在宅ケアの実施
8. 地域住民や消防署員を巻き込んだ初期救急医療の実施と体制作り
9. 地域の健康問題やニーズをテーマにした臨床研究の計画と実施

III 総合医を教育・養成することができる。

1. 成人学習理論の概要を説明することができる。
2. 地域、医療機関に応じたプログラムを作成することができる。
3. 学生、研修医が対象の授業、実習、研修会を企画・運営することができる。
4. Faculty development が対象の研修会を企画・運営することができる(医学教育実践クラークシップ)。
5. 適切なフィードバックを行うことができる。
6. 一人一人を見守り、相談に乗り、適切な助言を行うことができる。

教育方略と資源: 必須事項

1. プログラム参加者は、2年間の間に下記の講習会・研究会すべてに参加しなくてはなりません(修了者は免除)。
 - 1) 健康福祉プランナー養成塾(地域社会振興財団)
 - 2) 循環器予防セミナー(日本循環器予防研究協議会)〈個別目標Ⅱ-1,3,8 関連〉
 - 3) ACLS(Advanced Cardiovascular Life Support)講習会〈個別目標Ⅱ-5,7 関連〉(日本 ACLS 協会<アメリカ心臓協会日本支部〉)
 - 4) JATEC 講習会(日本外傷診療研究機構<日本救急医学会、日本外傷学会など支援〉)
または PTLs(Primary care Trauma Life Support)講習会〈個別目標Ⅱ-5,7 関連〉
2. プログラム参加者は、人数×時間が 100 以上の学生教育への参加も必須です。〈個別目標Ⅲ-1,3,5,6 関連〉
3. プログラム参加者は、「1編以上の学術論文の投稿」が義務付けられています。〈個別目標Ⅱ-8 関連〉

教育方略と資源: オプション

プログラム参加者は、それぞれの経験や将来のキャリア形成の目標に応じて、下記のような研修をオプションで計画することができます。

- 1) ローテート研修(含む技術研修)〈個別目標Ⅱ-5 関連〉
- 2) 院外地域医療活動 〈個別目標Ⅱ-1 関連〉
- 3) 海外短期留学(家庭医療学、老年医学、公衆衛生学、臨床疫学、行動科学ほか)

期間

2年間

内訳 自治医大内ローテーション2年

または、自治医大内ローテーション1年+地域医療機関1年

または、自治医大内ローテーション6か月+地域医療機関1年6か月

地域医療機関勤務中は、自治医大研究生として登録していただきますが、研究生としての学費は免除します。

評価

プログラム参加者は、外部評価者を交えた評価委員会に進捗状況を報告し、定期的な評価を受け、部門長・教員、プログラム参加者による双方向性評価を行います。

最後の概ね3か月は地域医療学センター地域医療学部門で振り返り及びまとめの作業を行います。

プログラム修了者には、自治医科大学が修了証を発行します。

出願資格

自治医科大学の卒業生(「後期研修」者または義務年限終了者)および一般の医師で、地域医療に3年以上従事した医師で、「総合医」の養成・指導に現在従事しているか、または今後従事する見込みの方

(注1「後期研修」:自治医大卒業後の義務年限の後半に設定されている研修)

(注2 資格審査があります。まずは、メールでご相談ください。)

身分

個々の状況に応じて、多様な身分でアドバンスコースに在籍できます。ご相談ください。

修了者に予想される勤務場所・進路

都道府県立中央病院等中核的な病院における臨床研修センター・総合診療部の指導医

地域の中核病院・中小病院及び診療所の指導的立場の総合医

大学病院における臨床研修センター・総合診療部・地域医療系講座の教員

地域医療の充実や総合医養成等、地域医療政策に関わる自治体の行政職

例:道府県へき地医療支援機構専門官、寄付講座「地域医療学」教員

このようなポストで活躍する医師は、現在、絶対数が不足しています！

出願をお考えの方へのメッセージ

これまで中堅以降の時期に大学と関連を持って自らの知識・技能・経験を磨いたり、さらに上を目指したりする場合には、大学の教員となって、期限を定めず診療・研究・教育に取り組むか、大学院生として研究中心の生活を送るかといったキャリアパスしかありませんでした。最近では、臨床医として勤務しながら研究もし、学位取得ができる社会人大学院生コースもできましたが、「総合医」の教育・指導にあたる指導者の養成を系統的に行うコースは存在しませんでした。

本コースのプログラム参加者は、地域医療の現場で勤務する期間も一定の指導を受けることができます。本コースの修了証には、現在のところ、学位記や専門医の認定証のような価値はありませんが、将来、このコースの修了者から「総合医」の指導医たる人材が輩出され、我が国のプライマリ・ケアの発展をリードする日が来ることを夢見ています。みなさまのご応募をお待ちしています。

連絡先

〒329-0498 自治医科大学地域医療学センター地域医療人材育成部門 電話 0285-58-7394(直通)

FAX0285-44-0628 E-mail:chiikikenshuu@jichi.ac.jp URL:<http://www.jichi.ac.jp/chiikik/advanced/index.html>

自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>